火花 緊急特別号 '69 4/17 共産主義者同盟関西地方委員会

■4/26(全関西京都)ー28(全国結集・首都制圧政府中枢占拠)の大爆発をもって、安保決戦段階への進展を開始せよ!

■日米帝国主義同時打倒をめざし、朝鮮危機ー日米反革命軍事共同行動ー日帝のアジア海外派兵阻止に向けて、沖縄基地撤去ー米軍政打倒、日帝の侵略前線基地化阻止を

日(本土ー沖縄)ー米ーアジア階級闘争の結合でもってかち取れ!

■ソビエト・コンミューン型運動を中央権力闘争に結集ー牽引し、今秋に向けて中央権力闘争ー地域マッセンストを創出せよ!

■4/20集会に全力結集し、4/26・28ー11月安保・沖縄闘争の鉄の意志統一をかち取れ!

1 11月佐藤訪米・日米共同声明と4・28闘争

既に「火花」4号で確認した如く、七〇年安保闘争は、今11月佐藤訪米・日米共同声明を期限においた決戦的段階に入りつつある。昨年のジョンソン声明ー米大統領交代の過渡期をぬった帝国主義の世界戦略再編は、ニクソン登場后、本年の訪欧をもって国際政治過程に登場し、独仏、英仏対立、米による英仏軍縮等の動向を含んだ欧州再編、中近東危機、アフリカの再分割戦、ベトナムからタイ・ラオスへの波及、パキスタン、インド、韓国等の中進国危機と再分割戦、朝鮮ー極東危機として、急ピッチに全世界に拡がっている。それに照応して、チェコ問題の再燃、中ソ武力衝突等、「労働者国家」群、各国共産党の再編も頂点に達し始めている。

これらの全世界的動向に規定されて、日米同盟の再編と日帝戦略の向は、朝鮮危機を焦点に、インドネシアを制軸にして、米本土軍の朝鮮投入、ポラリス配置、米帝との軍事共同行動をもってする日帝のアジア海外派兵ー軍事膨張、それを軸にしたASPACのPATOへの発展強化として設定された。この方向の全力を上げた推進の裏として、沖縄返還でネスト性折とフォーカスレチナ作戦をあせて、沖縄問題を押し出し、「核抜き本土並返還」を打ち出しつつ、同時に「日米帝の自由使用・ポラリス配置」を対中、対朝鮮をもって追求し始めている。二〜四月をもってこの方向を構築してきた日帝ブルジョアジーは、以降、外相訪米、ASPAC・日米至高合同委等の連続的発展開をもって、11月への集約を開始している。四月闘争はこの間の安保闘争と大衆の自然発生性が、この戦略的方向への対決へと飛躍し、国民的分裂と集約を反帝統一戦線の力でもってつくり出し、11月への決定的第一歩を獲得し、11月への連続的展開の質を獲得すべき闘いとして位置している。 七〇年代前半に至る全階級を根底から巻き込んでいく永続的政治攻防戦の第一歩が、4・28闘争である。

2 現段階の階級情勢と4・28闘争

朝鮮危機ー日米反革命軍事共同行動ー日帝のアジア海外派兵に向けて、沖縄の帝国主義的決着にのり出した日帝ブルジョアジーは、それに向けて国内治安体制を戦略的に設定している。学内政治活動の圧殺→全学連破壊、公労協労働組合の破壊→総評解体、職場段階での転勤による安保キャンペーン、治安警察による街頭制圧、自衛隊治安出動の諸準備が既に開始されている。この治安体制と結合して全社会再編が、企業集中、銀行集中と運輸通産、大学、行政機関の国家領域の再編ー統合を環におし進められている。これらを根底的に規定して、鉄鋼過剰生産の成熟と米の対日輸入規制、自動車を中心とする米の対日資本輸出(七二〜三年資本自由化)乗帝アジアにおける分割戦と中進国危機が進行している。